

「友の会文庫」投稿文の著者による紹介です。

「寅彦さんのプロバビリティ三話」双六の賽、酔っぱらいの行方、箸拳は、いずれも旧全集 10 巻（ローマ字の巻）現全集 9 巻（ローマ字の巻：邦字表記）Ⅱ思ったことよりです。

その 1 双六の賽

寅彦の実験では 1 回目 295 回サイコロを振った。2 回目は 265 回振った（旧全集）となっています。著者はなぜ 300 回でないのかなと、すぐ感じました。

この 265 回が現全集では 295 回と変わっています。

統計的検定で 265 回でも全くおかしくないことを指摘したレポートです。

その 2 酔っぱらいの行方

100 年前の英欧とわが国の科学レベル差は余りにも大きかった。その中でアインシュタインの論文を読んだ寅彦さんが考察した「ブラウン運動」についての記述です。追記も含めて読んでください。

その 3 箸拳

土佐の酒場でのゲームです。確率は「パスカル、フェルマー往復書簡」1654 がはじまりと言われています。寅彦の「箸拳」考察の記録は、郷里土佐のゲームを扱った物理学者による確率取り組みの先駆ではないでしょうか。

当時の確率が数学者の間では軍事面から扱われ始めていたのに対し、上記三話を含め寺田寅彦が身近なゲームの側面から確率を考察したことは、十分留意する必要があると思います。